

鍋平 饗庭文庫

御前義經祀

備前室の漆

吉野忠信

七之巻目録

面影のる和歌が城

一 法師の腹切

志とらへ  
九寸又分れ刀  
佛之令の  
とら草

床のぬけぐ  
ふん中か如師

面影のる和歌の巻

二 別紙の巻

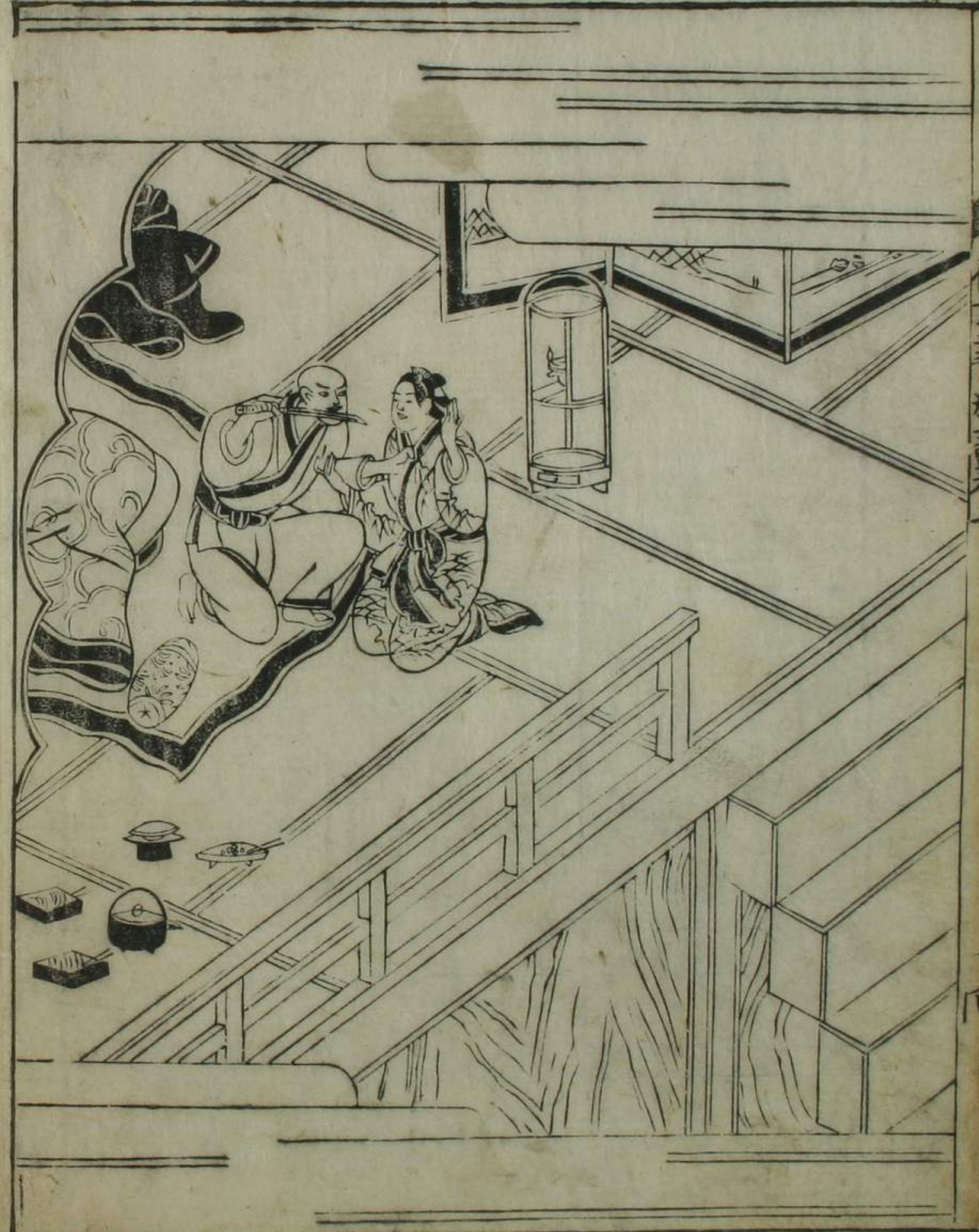
目下八月のこの  
から  
流名に新巻の漢よか  
ましあうましあう室は漆





















命をうけとらうと定むる所なりと云ふは  
ぬれぬれと云ふはむらさきと云ふは  
にわづらひまゝと云ふはむらさきと云ふは  
うらなひの身と云ふはむらさきと云ふは  
まゝと云ふはむらさきと云ふは  
年々と云ふはむらさきと云ふは  
此の身と云ふはむらさきと云ふは  
おろしと云ふはむらさきと云ふは  
流るる水と云ふはむらさきと云ふは  
つとめと云ふはむらさきと云ふは  
年々と云ふはむらさきと云ふは

に海と云ふはむらさきと云ふは  
たまたまと云ふはむらさきと云ふは  
ひりくると云ふはむらさきと云ふは  
と云ふはむらさきと云ふは  
めと云ふはむらさきと云ふは  
かたはと云ふはむらさきと云ふは  
乃海と云ふはむらさきと云ふは  
たまたまと云ふはむらさきと云ふは  
はぬれぬれの身と云ふはむらさきと云ふは  
かたはと云ふはむらさきと云ふは  
中と云ふはむらさきと云ふは  
先と云ふはむらさきと云ふは

元サマシ

ふれサヨリ

今義おとろし神あめ身とて今一交あつてくさせし  
 たりかたみのでくあめこも母ト思ひの種運る月花と  
 多しわあてとほさうかんと身れ今よれ海はれくさ  
 うめ身れわしがまねるんぬそはくあめさうの  
 下れ実への身れた家の漆よりのとかりを采にわひと  
 らうととろりおあし人わきこたつともうしお鬼角  
 あくと海りお船の舟をこ母よいよ海とこせもひぬ元  
 がうく一人をあらもあじあを依よしかとらあひぬ  
 とりまふ又石存そし依くもと夕極のうし海と  
 出ふ直候の上十余人難波の流成流ふなり川にちりて  
 に流出流えんとぬし神よあかし四方京と流る

先たのうし天守寺佛法家神の形寺聖徳太子の  
 建立して氣流せしうりあ流流ありぬわらせと  
 任君のねき世をぬんとたあどつし移くむとあ  
 けりよ吹るうとかりたぬんあき海舟の内昔庫れ  
 きた一の音わきぬんわのりたれんうわうとあふも  
 あびしれ梅高砂乃浦志やとあ姫海れ城もかのめ  
 に泳中う海津れ漆舟屋とまよいそげとらあ  
 とあて室れんかんとあん村う海とあ

三 方便乃揚格

らあぐりんとうと志のどらうしあ里と流よあ  
 津の漆よま流る流の身今い里の名取川子  
 いふ流るうとと流ふらまうぬんり勤うとあ揚屋入





















